事　務　連　絡
令和６年10月７日

各 { 都道府県 / 保健所設置市 / 特別区 } 衛生主管部（局）御中

厚生労働省健康・生活衛生局感染症対策部感染症対策課

デング熱の国内感染が疑われる症例の発生について

今般、台湾の衛生担当部局（台南市政府衛生局）より、台湾で本年９月に確認されたデング熱感染症例について、日本滞在中にデング熱に感染したと考えられる旨の報道発表がありました（別添１、２）。

台湾から提供された情報に基づき、専門家による検討を行った結果、日本入国前の台湾で感染した可能性も残るものの日本で感染した可能性は十分考えられるとの結論に至りましたので、情報提供します。現在のところ、関係自治体の媒介蚊のサーベイランスにおいてデングウイルスは検知されていませんが、外国人訪問者の増加もあることから、関係自治体に対して媒介蚊のサーベイランスの強化を検討するなどの対応をお願いしているところです。

つきましては、本事例について、貴管内の医療機関等の関係者へ情報提供するとともに、デング熱の国内感染が疑われる事例については、速やかに保健所への情報提供を行っていただくよう協力要請をお願いします。

また、蚊媒介感染症への対応については、「蚊媒介感染症に関する特定感染症予防指針」（平成27年厚生労働省告示第260号）、「デング熱・チクングニア熱等蚊媒介感染症の対応・対策の手引き　地方公共団体向け」（平成27年４月28日国立感染症研究所策定（最終改訂平成29年４月28日））及び「蚊媒介感染症の診療ガイドライン（第５．1版）」（平成27年５月22日国立感染症研究所策定（最終改訂平成31年２月７日））等においてお示ししているところですが、国内における媒介蚊の対策並びに感染者への対応や医療機関における対応等についても改めて周知いただくようお願いします。

なお、本件に関する事務連絡を公益社団法人日本医師会に発出しておりますことを申し添えます。

（参考）

- 「蚊媒介感染症に関する特定感染症予防指針」
  https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001091242.pdf
- 「デング熱・チクングニア熱等蚊媒介感染症の対応・対策の手引き　地方公共団体向け」
  https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/0000163947.pdf
- 「蚊媒介感染症の診療ガイドライン（第５．１版）」
  https://www.mhlw.go.jp/content/000477538.pdf
- 「デング熱に関する注意喚起等について」（令和５年８月 23 日付け厚生労働省健康局結核感染症課事務連絡）
  https://www.mhlw.go.jp/content/001140588.pdf
- 「デング熱・チクングニア熱・ジカウイルス感染症等の媒介蚊ヒトスジシマカの対策＜緊急時の対応マニュアル＞」（国立感染症研究所ホームページ）
  https://www.niid.go.jp/niid/images/ent/2019/manalbo20191024.pdf

別添２

台南市政府衛生局プレスリリース（仮訳）（2024 年 10 月 4 日時点版）
（https://health.tainan.gov.tw/page.asp?mainid=A5B868FF-2F39-4BFC-AE65-B3E177756E84&srcorcaid=BB92A4F2-BCA7-4073-9020-10154AB4405A）

台南市で第 20 例目の輸入症例が確認されました。住民が自ら旅行歴を報告し、診療所から保健所に転送され、検査で陽性が確認されました。

台南市では 9 月 27 日に新たに 1 例の海外からのデング熱感染が確認されました。患者は官田区渡拔里に住む 30 代の男性で、9 月 14 日から 9 月 23 日まで日本の横浜と大阪を訪れ、観光やイベントに参加していました。帰国後、9 月 24 日未明に発熱、頭痛、全身の痛みなどの症状が現れ、9 月 26 日に麻豆区の哲賓耳鼻喉科診療所を受診し、旅行歴と蚊に刺されたことを自主的に報告しました。医師は直ちに保健所に転送し、デング熱 NS1 迅速検査を実施した結果、陽性と判明し報告されました。保健所は直ちに患者の居住地にスプレー缶を設置し、周囲 50 メートルの範囲で媒介蚊の密度調査と衛生教育を実施しました。区役所の防疫チームも直ちに里/隣長とボランティアを動員して、環境中の繁殖源を除去しました。本件は 9 月 27 日に実験室でデング熱第 3 型と確定され、各種防疫対策が積極的に進められています。発表時点では他の疑わしい症例は確認されていません。

感染源調査については、検査結果が IgG および IgM ともに陰性であったため、最近 7 日以内に感染した可能性が高いと判断されました。この期間中はすべて日本に滞在していたため、大阪市で観光中に蚊に刺されたと述べていることから、本件は輸入症例と判断されました。疾病管制署のデータによると、今年（113 年）は東南アジアおよび南米でデング熱の流行が深刻であり、9 月 27 日までに国内で累計 215 例の海外からのデング熱感染が確認されています。台南市では 20 例で、感染国は主にインドネシア、タイ、フィリピン、マレーシアからです。南米ではブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、ペルー、コロンビアが主な感染国です。

黄偉哲市長は、市民が積極的に受診し、旅行歴を自ら説明し、保健所での検査に協力したことを称賛し、哲賓耳鼻喉科診療所の許医師が積極的に転送し、地域での感染リスクを迅速に遮断したことに感謝しました。市長はまた、市民に対して、海外旅行、仕事、帰省の際には個人の健康管理を徹底し、出発前に自宅の環境を清掃し、蚊の発生源や水たまりを除去すること、旅行中は防蚊対策を行い、衛生署が承認した防蚊スプレーを使用すること、帰国後に体調が悪い場合は速やかに受診し、自己判断で薬を服用せず、医師に旅行歴を報告することを呼びかけました。また、医師には積極的に T.O.C.C.を問診し、デング熱

NS1 迅速検査を活用して迅速に報告し、海外からのデング熱感染例を早期に発見し、防疫チームが早期に対策を講じることができるようにすることを求めました。関連情報は台南市政府デング熱防治センター（http://bit.ly/3xHfuzL）または防疫専線（06-3366366）をご覧ください。